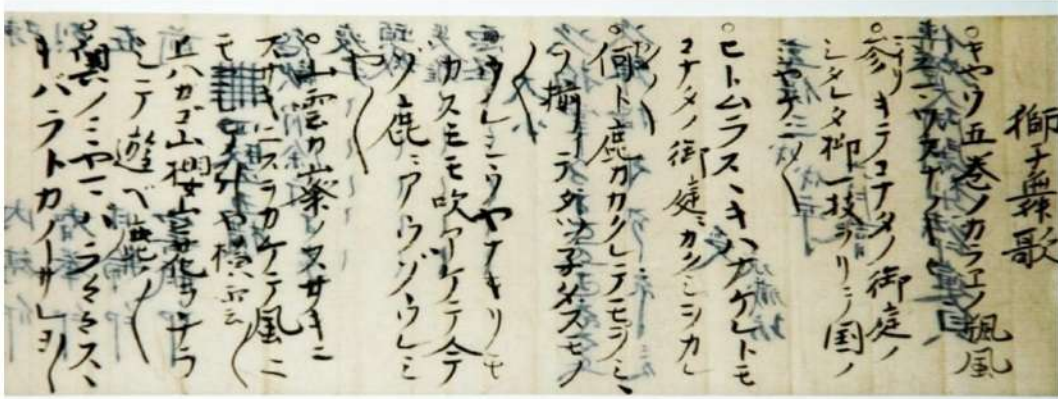


木村 博 「『般若心経秘鍵』の功德」と永（栄）蔵坊文書 その 2

野口 一雄



「獅子舞歌」 永（栄）蔵坊は獅子舞（踊）連中も支配した。

平塩熊野神社永（栄）蔵坊について。月光善弘『東北の一山組織の研究』「平塩熊野神社と民間信仰」に載る「平塩熊野神社（平塩寺）の組織」（H3 佼成出版社）によれば、六供職（妻帯）に永（栄）蔵坊がみえる。なお、熊野神社拝殿に向かって摂社日枝社（左）と八幡社（右）の内、日枝社は永（栄）蔵坊が管理したという。

永（栄）蔵坊は山寺夜行念仏講本寺として、明治 5 年（1872）山寺宝珠山中性院に移るまで講中を支配した。永（栄）蔵坊は真言系修験であることから、立石寺山上の中性院は元真言系修験だったことも考えられよう。江戸期の平塩熊野権現社は明治初年、神職建部家と智山派平塩寺に分離し現在に至る。



現在所在不明

永（栄）蔵坊文書は山形市史編さん室の故武田喜八郎が発見し、山形市漆山遍照寺住職故竹田賢正氏（当時県史編さん室／元村山民俗会員）が世に紹介することとなった。（「山寺夜行念仏の習俗と平塩栄蔵坊文書」など『中世出羽国における時宗と念仏信仰』1996 年、所収）山寺夜行念仏関係資料を含む「永（栄）蔵坊」文書は後年、寒河江市に寄贈された。（完）